

未来の日本を支える。「鉄」を守る。 100年錆びさせない。

株式会社 新免鉄工所

2016年に、創業100年を迎えた(株)新免鉄工所。小さな工場からスタートし、機械加工から金属表面処理加工へと、時代の変化、日本の発展とともに歩んできた。企業理念に「お客様へ最高の品質を提供することを通じ、全従業員の物心両面の幸福を追求し、社会の発展に貢献をする。」を掲げる。社長の新免謙一氏にこれまでの歴史とこれからの100年に向けてのお話を伺いました。

創業の歴史

はじめは1台の旋盤から

1916年に曾祖父である新免五郎市が大阪市西区本田町の自宅の一部に1台の旋盤を据え付けて機械加工を開始したのが当社の始まりです。もともと、岡山で農機具などをつくる鍛冶屋を営んでいましたが、39歳の時に一念発起して大阪で仕事を開始しました。創業当初は路面電車の車輪の機械加工を手掛け、1920年代になると利用客の急激な増加とともに、事業も安定してきました。そこで1936年に西淀川区の工業地域に会社を移転し、御幣島工場を建設しました。その後も順調に事業を進めていましたが、御幣島工場はやむなく閉鎖することになります。曾祖父の跡を継ぎ、工場を切り盛りしていた祖父が戦争へ赴いたためです。

戦争から帰還した祖父は、焼け跡から掘り出した旋盤を尼崎の知り合いの工場に置かせてもらい、そこで機械加工の請負をし、工場を再開する機会をうかがっていました。さらに、機械加工だけではなく、次工程の表面処理も自分のところでやれるようにならなければいけないと考え、1947年に知り合いと共同で近畿鋼業所を設立し、サンドブラストと溶射の事業を始めました。実はこれが今の当社の事業の基礎となっています。

曾祖父への恩返し

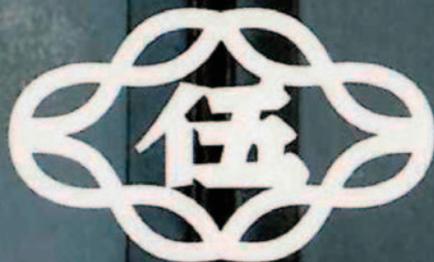
御幣島工場の再開

祖父は戦争に赴き、御幣島工場を閉鎖した時から、必ず帰還し、同じ地で会社を再スタートさせることを心に誓っていました。それは曾祖父への恩返しのためでもあります。そのために、散り散りになっていた戦前から縁があった職人を呼び集め、戦後で受注も冷え込むなか、受注先を探し、ようやく終戦から6年後の1951年に(株)新免鉄工所として御幣島工場を再スタートを切りました。

再スタート後は、機械加工も行っていましたが、近畿鋼業所時代に行っていたサンドブラスト、溶射が事業の中心でした。設立当初は10名程度の小さな会社であったため、祖父は現場の作業や研究・開発を行いながら、会社を運営するというので大変だったと聞いています。



創業当初の(株)新免鉄工所



100年
錆びさせない。
それが新免鉄工所の
プライドです。



株式会社 新免鉄工所

代表取締役社長：新免 謙一 氏
本社：大阪市西淀川区千舟3-9-7
創業：1916年10月28日
設立：1951年10月
従業員数：47名
事業内容：ブラスト加工

溶射（ガス／アーク／プラズマ）
焼付塗装（液体型／粉体型）



■防食溶射技術 鉄のアンチエイジング

亜鉛やアルミニウムなど、鉄より卑な金属を溶かし吹き付けて被覆する技術。空気を遮断し防食する塗装とは違い、電気化学的に母材を防食。塗り替えの難しい鉄塔、タンク、煙突、橋梁などのメンテナンスが軽減できる。



■表面処理のワンストップ工場

2014年に新築した尼崎工場。本社にはない新しい設備も導入した最新工場。大型の乾燥炉を完備し、下地処理から防食溶射、塗装、出荷まで、ワンストップで対応。



■パラボラアンテナ基施工

1981年に64mパラボラアンテナの表面処理工事を受注。1983年設置完了。この受注が当社の業績を飛躍させた。以来、パラボラアンテナ案件を多くこなしている。

高度経済成長とともに成長 千船第一、二工場の建設

会社設立から5年後の1956年には西淀川区千舟に千舟工場を建設しました。千舟工場では、クレーンを導入したり、表面処理の新しい機械を導入し、手作業メインから少しずつ機械化を進めていきました。ものづくりの体制も整ったところで、次は営業活動に奔走しました。そうしたひとつひとつの取り組みが実を結び、多くの企業と仕事をさせていただくまでになりました。

その翌年、1957年には千舟に表面処理専門の第二工場を建設しました。これが現在の本社工場です。祖父は日本経済の発展とモータリゼーションの到来で、今後はインフラ関係の大型案件が増えるだろうと考え、御幣島工場では扱えなかった大物や重量物を扱えるような工場レイアウト、設備を整えました。これが後の橋梁やパラボラアンテナ基の受注に繋がります。総重量18t、最大長さ17mまで対応可能です。



表面処理加工の作業風景

平成に入り・・・ 橋梁など大型案件の受注

平成に入ると、明石海峡大橋や国立天文台ハワイ観測所、新名神高速道路など、大規模施設の表面処理工事を次々と手掛けました。2014年には下地処理から防食溶射、塗装、出荷までをワンストップで対応できる尼崎工場も新設しました。

橋梁の耐用年数は約50年と言われています。高度経済成長期に建設したものはこれから補修の時期に差し掛かります。橋梁など、取り外しが難しいものは出張施工で補修作業を行っております。今後も橋梁や高速道路など、皆様の生活を陰で支え続けていきたいと思っております。

次の100年に向けて

当社は新人を教育する際、マニュアルを用いるのではなく、現場で先輩と一緒に作業を行います。現場に入ると、耳栓、マスクをするため、声が聞こえずコミュニケーションがとれません。そのため、作業を教えるのは身振り手振りのみです。先輩の背中を見て技術を盗み、学ぶ。これが逆に良いのかなと思っています。

昨年、おかげさまで創業100周年を迎えることができました。私は、これを機にやりたいことが2つありました。まず1つ目は会社の100年史を作るこ

とです。資料を掘りおこし、作成するのは大変でしたが、曾祖父から続く会社の歴史を知ることができ、会社の歴史の重みと、改めて社長としての責任を感じることができました。もう1つは従業員に対する感謝の気持ちを伝えることです。通常であれば、100周年記念パーティなどを催し、取引先を中心に招きますが、今回は、従業員と家族の皆さんのために記念旅行を企画し、旅行先で100周年記念パーティを行いました。従業員だけではなく、いつも支えてくださる家族の方へ恩返しとなる貴重な機会となりました。

当社は従業員の親子、兄弟、友人が多く働いています。息子や弟に入社を進めてもらえるのはありがたいことだと思います。これからも社員を大切に

する会社であり続けたいと思います。当社は製造業では一番最後の工程です。お客様の製品を預かり、付加価値を付けて送り出します。送り出した製品は多くの人の目に留まり、何年にもわたり存在することになります。当社はその製品が長くきれいに保てるように、100年後でも送り出したままの姿であり続けられるようにこれからも皆様のお力になりたいと思っています。

**貴重なお話をいただき、
誠にありがとうございました**